

病理学会九州・沖縄支部、若手病理医の会概要

I. 立ち上げの契機・目的

橋本洋前支部長の立案により、新人病理医の育成支援、コミュニケーション支援、意見の吸い上げと還元を目的に平成 23 年度業務委員会活動計画案でその骨子が提示され、平成 24 年度の支部総会后より本格的に活動を開始した。

II. 現在の組織構成および会員資格

1. **会長**(業務委員会委員長):木佐貫 篤(宮崎県立日南病院)
2. **代表者会**:会の運営と活動の立案・実行を行う。代表者の世代交代をスムーズに行うため、会員の中でもより若手を代表者補佐として加えている。現在は代表者 11
3. +代表者補佐 6 名の計 17 名で構成。2ヶ月に一度のスライドコンファレンスの日程に併せて年 3 回程度代表者会を開催している。
代表者会司会・議事録担当:内藤 嘉紀(久留米大学)
4. **一般会員**:会員資格は「病理専門医を目指す者で、病理専門医取得後 5 年まで」現在の会員数は 91 名。

III. 活動内容

活動の殆どはスライドコンファレンスの日程に併せて行っている。

1. **会員名簿の作成/更新とメーリングリストの整備** [担当:黒濱 大和(長崎医療センター)]
メーリングリスト:会員間の連絡や問題提起、議論、調査などに活用。会員名簿の更新に併せてアップデートしている。
会員名簿:毎年 4 月に各大学の代表者で調査を行い、会員名簿を更新し、会員にメールで配布する。名簿の項目には、氏名、勤務先、大学卒業年、病理専門医資格の有無、病理専門医取得年、細胞診専門医資格の有無、メールアドレスが含まれる。
2. **全体懇親会:八難会(はっそうかい)の企画・開催**
スライドコンファレンス主催の懇親会がない、5 月のスライドコンファレンス後に限って年 1 回、開催している。新人会員の紹介や、卒業する会員の挨拶、会員間の親睦を目的とする。ちなみに八難とは、九州・沖縄 8 県の難の意。会員内では「ハッスル会」とも呼ばれている。
3. **診断講習会や九州・沖縄支部ティーチングファイル(TF)を用いた勉強会**の企画・開催
専門医を目指す会員のサポート目的で、代表者会で企画。これまでに 2 回の診断講習会(講義形式)を開催したが、より自律的な活動を目指して、今後は TF を用いた勉強会を年 2-3 回行う方針となった(専門医既取得の会員が TF の解説を行う形式)。2014 年 9 月に第一回の勉強会を開催した。
4. **スライドコンファレンス主催の懇親会への参加よびかけ**
スライドコンファレンス後に開催される懇親会は、世代を超えて親睦を深める絶好の場ではあるが、若手にとってベテラン病理医が大半を占める懇親会への参加は敷居が高いという問題があった。若手病理医の会では、スライドコンファレンス後の懇親会への積極的な参加をメーリングリストで呼びかけている。若手の参加が増えることにより、より若手が参加しやすくなり、「縦と横のつながりの強化」が期待できる。

IV. 活動実績

- **会員アンケート**:2 回(会の在り方や活動について)

- 診断講習会:2回
 - 2012.11月 子宮頸部生検の病理;扁平系(佐賀)
 - 2014.1月 子宮頸部生検の病理;腺系(鹿児島)
- TFを用いた勉強会:1回
 - 2014.9月 婦人科領域(含細胞診)
- 八雑会:2回(2013.5月、2014年5月)
- メーリングリストを用いた実態調査:3回(解剖時の感染対策について、実習・講義の指定教科書について、病理解剖の状況について)

V. 会員数および新規会員数、専門医合格者数の推移

- 2012年 会員数:77
-
- 2013年 会員数84
- (新規会員15
-)、2012年専門医取得者5
-
- 2014年 会員数91
- (新規会員10
-)、2013年専門医取得者7
-

*九州・沖縄外への異動や、専門医取得後6年以上で名簿から削除される先生がいるため、新規会員数と会員の全体数は一致しません。